

2020年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長
石黒 成直

石黒でございます。私から2020年3月期の通期見通しについてご説明します。

第3四半期の売上高増減イメージ

Attracting Tomorrow 

(億円)

セグメント 区分	2020年3月期 第2四半期実績	2020年3月期 第3四半期予想 (対2Q)
受動部品	1,019	±0%
センサ応用製品	208	+6%~+9%
磁気応用製品	545	+5%~+8%
エネルギー応用製品	1,737	△6%~△9%
その他	194	—
合計	3,702	△1%~△4%

為替レート \$/Yen

107.39

為替レート EURO/Yen

119.48

為替前提

108.00

122.00

2020年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2019
広報グループ・2019/10/31・14

当期下半期の需要環境については、世界経済の先行き不透明感が継続し、景気回復は期待できないと想定しています。産業機器市場においては半導体製造設備等の需要回復の兆しが出てきていますが、自動車市場の需要は世界的に低迷しており、低調な状況が継続すると見えています。またスマートフォンの需要も第2四半期がピークで第4四半期に向けて緩やかに減少していくと想定しています。

このような環境下、今期第3四半期の売上見通しも厳しい状況を想定しており、全体では第2四半期と比較して▲1%~▲4%減少すると予想しています。

セグメント別に見ますと、まず受動部品セグメントにおいて、第2四半期からほぼ横ばいの水準と想定しています。MLCCは、自動車市場向け需要があまり回復せず、また代理店の在庫調整も少し時間がかかると想定し、第2四半期から若干減少、アルミ電解コンデンサ・フィルムコンデンサは微増、インダクティブデバイス、圧電材料部品・回路保護部品や高周波部品はほぼ第2四半期並みの水準で推移すると見込んでいます。

センサ応用製品セグメントは6%~9%増加すると見込んでいます。自動車市場向けは第2四半期からほぼ横ばい、TMRセンサはICT市場向けが堅調に推移、またMEMSセンサにおいても、MEMSモーションセンサはICT市場向けが堅調に推移、MEMSマイクロフォンはIoTデバイスおよびスマートフォン向けの販売が増加すると見込んでいます。

磁気応用製品セグメントは5%~8%の増加と見込んでいます。HDD組立販売がさらに減少するものの、HDDヘッドの数量が約1%増加することに加え、ニアライン向けHDDヘッドの増加による平均売価の上昇で約2%の増加、HDDサスペンションはニアライン向けHDD用を中心に数量が増加し、売上も約17%増加、マグネットはHVモーター用の販売が増加することを見込んでいます。

エネルギー応用製品セグメントは▲6%~▲9%の減少と見えています。二次電池においてミニセルの売上は好調に推移する一方、スマートフォン向けについては全地域において主要大手得意先向け売上がピークの第2四半期からスローダウンすることを見込み、二次電池全体で減少と見えています。電源は若干の増加と想定しています。

2020年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow 

(億円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 業績予想 (2019年4月発表)	2020年3月期 業績予想 (2019年10月発表)	業績予想対前期比	
				増減	増減率(%)
売上高	13,818	14,200	13,900	82	0.6
営業利益	1,078	1,200	1,200	122	11.3
営業利益率	7.8%	8.5%	8.6%	+0.8 pt	-
税引前利益	1,156	1,180	1,180	24	2.1
当期純利益	822	840	840	18	2.2
1株当たり利益(円)	651.02	665.11	665.06	-	-
配当金	上期：80円 下期：80円 年間：160円	上期：90円 下期：90円 年間：180円	上期：90円 下期：90円 年間：180円	-	-
為替	対ドルレート	110.94	108.00	108.00	-
	対ユーロレート	128.48	122.00	122.00	-
固定資産の取得 (設備投資)	1,736	2,000	2,000	264	15.2
減価償却費	1,066	1,300	1,300	234	22.0
研究開発費	1,152	1,200	1,200	48	4.2

2020年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2019
広報グループ・2019/10/31・15

次に通期の連結業績予想についてご説明します。

今回売上について見直しを行い、期初発表の1兆4,200億円から300億円下方修正し、1兆3,900億円といたします。

対象とする重点3市場において当初想定していた需要動向が大きく変化しており、ICT市場向けは二次電池を中心に売上が好調に推移し、想定を上回る水準が見込まれる一方、世界経済減速の影響を大きく受けている自動車市場および産業機器市場の需要は下半期も回復しないと想定、主に受動部品やセンサの一部製品の売上が想定していた水準を下回ることを見込み、売上見通しを下方修正いたしました。

営業利益、税引前利益、当期純利益については変更ありません。下半期の為替レートの前提、設備投資、減価償却費、および研究開発費の計画も期初から変更ありません。

配当金については期初予定通り上半期90円、下半期90円とし、年間180円を予定しています。

世界経済の先行きが不透明な中、需要動向を注視しながら成長戦略に基づく施策を加速し、成長機会を確実にキャッチしていくとともに、課題事業の収益改善施策を着実に推進し、通期業績見通しの達成を目指してまいります。私からの説明は以上です。ありがとうございました。

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は、以下のページに後日掲載いたします。
https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir_events/conference/2020/2q_1.htm